

かけ算の導入

島根県松江市で授業をやった。2年生のかけ算の導入である。かけ算だから、2年生では最大の見せ場である。

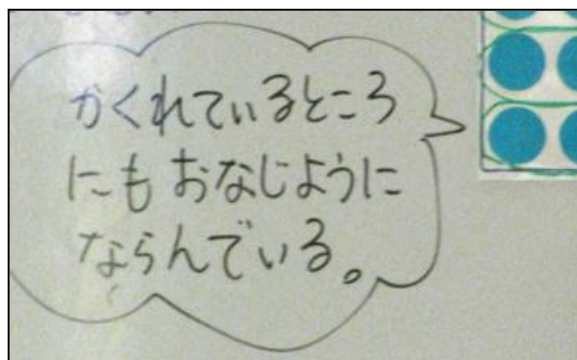
箱を見せる。ふたを一部取り、「箱の中のおだんごはいくつ？」と問う。

私は鳥取出身。鳥取には、有名な打吹公園だんごというのがある。子どもは知っている。4人起立してください。

T「今から箱を開けていくよ。いくつあるか、わかったと思ったら座ってごらん。」

横にずらし、上にずらしと25人全員が座った。

こうして評価することができる。座るといふ動作で、子どもに変化がでた。ここで続けたら意味がない。どうして座ったかインタビューする。



「隠れているところが同じように並んでいる」

T「同じように並んでいるってどういうこと？」

「この上にも2つ。隠れているところにも同じように並んでいる。」

子どもが言ったとおりに板書してあげる。それが、子どもの意見を大切にすること。

大事な言葉は、「同じ」。日常言語だから、聞いていい。

T「みんなはどう思う？」

T「ノートに図を描いてみよう。」

ノートに描くということは、目的があるとき

次の人「3こが5こあるから」

島根でも「3が5こある」と言ったので聞き返した。誰か説明して？

「たて3こ、よこ5こがつまっていると思ったから」

2年生の言葉で、「横5こが3列あった」

$5 + 5 + 5$ こう表すんだね。

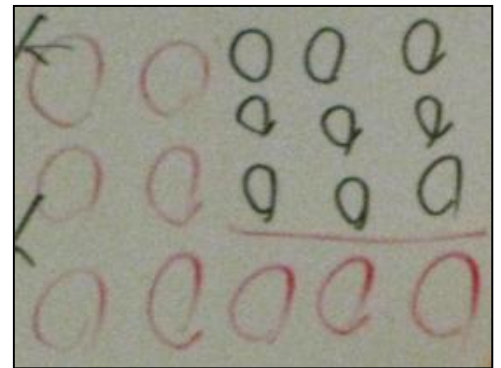
$3 + 3 + 3 + 3 + 3$ これもノートに書いておこう。

「5が3つ分」「3が5つ分」

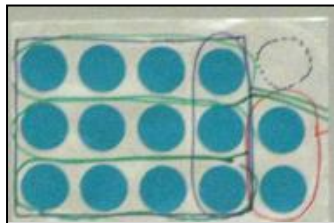
かけ算の意味は十分子どもたちが語った。

途中まで見せてから、子どもたちに答えを聞いた。

15と言った子が 25人中22人
 17こが1人、18個が2人。
 17の子は「数え間違いでした」と認めた。
 18この子は変えない。「図を書いてごらん」。
 確かにこう書いたから見る事ができた。(笑)(右写真)



見せましょう。



(大爆笑)

これがオチ。

「14個だった」「1個食べちゃった。」

子どもは「ふたについているかも。」といった。

「ふたについていることにしよう」と言った細水先生が動揺し

ていた。(笑)

これは、受けをねらうためではない。実際はこの2つ(上写真の右端の2つ)を隠す

C「きれいに並んでいる」

T「どういうこと」

C「箱にぴったり入っている」「四角に並んでいる」

ここで、 4×3 を押さえることができる。

後半どう授業をしたか。12この団子のきれいな並べ方を考えよう。

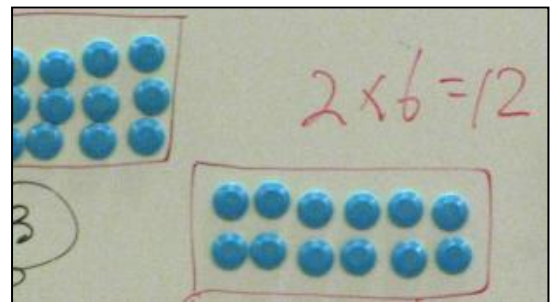
「きれいな並べ方」が、かけ算で表現できる並べ方だ。

後半は、評価をするためのものだ。

できない子がいると、「タテに2」などとヒントをしてくれる子がいる。

(本当はそうではないが) 6×2 が多いみたいだよと言う。

そこで、「磁石がなくなった。これくずす？」と聞くと、「くずさなくてもいいよ。縦にくくっているのを横にくくればいいよ。」そうしてくれる子がいる。



子どもの言葉に培って授業を作っている。教科書と同じような素材。一つの例だが、かくすと子どもは喜ぶ。